

# 2018年度 事業報告書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

## 1 概要

本財団は1945年4月4日に設立され、事業目的である「海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発展を図ることを目的」として(公1)～(公3)の事業を行う。

2016年9月1日からは、公益認定を得て、一般財団法人から京都府所管の公益財団法人となり、2017年12月21日からは、変更認定を得て、内閣府所管の公益財団法人となった。

賛助会員の数は、個人会員が115名、学生会員が5名、法人・団体会員が5法人である。

法人の主たる事務所は、京都府宇治市の京都大学化学研究所内に置く。その他の事務所はない。

法人の役員は、評議員4名、理事5名、監事2名である。

法人の職員は、常勤職員が1名である。

## 2 (公1) 学術助成金の事業

海洋化学に関する研究、助成および奨励をなしその発展を図るため、その分野における研究者に学術助成金を支給する事業を行った。

助成金の種類は、以下の2種類である。

ア 海洋化学に関する研究者(大学院生以上の学生も含む。)向けの、研究助成金。以下、「研究助成金」と言います。

金額 1件150万円以下 年数件

イ 海洋化学に関する研究者(大学院生以上の学生も含む。)向けの、海外の大学、研究機関、学会、シンポジウム等への海外渡航費に関する助成金。以下、「海外渡航費に関する助成金」と言います。

金額 1件40万円以下 年数件

これに基づき、助成金への応募を、2018年11月10日から2019年2月8日まで、財団のホームページ、及び、本財団発行の研究所報「海洋化学研究」を用い

て、呼びかけた。

本助成金の受領者などを決める選考委員会のメンバーは、以下の6名である。

平木敬三(近畿大学名誉教授)

左右田健次(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

中西正己(京都大学名誉教授 兼 本財団評議員)

宗林由樹(京都大学教授 兼 本財団代表理事)

蒲生俊敬(東京大学名誉教授)

加藤義久(東海大学名誉教授)

2019年2月16日、選考委員会が開催され助成金の受領者の選考答申が行われ、この答申結果は、2019年3月16日に理事会にて承認された。助成金の受領者は、以下のとおりである。

ア 研究助成金 (6名、合計8,400千円)

代表者 氏名	代表者所属・ 職名	研究題目	助成金額 (千円)
鄭臨潔	京都大学化学 研究所・助教	北太平洋および南太平洋における微量 金属のストイキオメトリ-と断面解析	1,500
辻阪誠	京都大学大学 院理学研究 科・博士後期 課程3年	モリブデン・タングステンに基づく日 本海における古海洋環境の復元	1,400
西川遼	近畿大学大学 院総合理工学 研究科・博士 前期課程2年 生	温泉水と土壌有機物を利用した大阪湾 を豊かな海に復元する研究	1,300
長谷川 浩	金沢大学理工 研究域物質化 学系・教授	世界的船舶解体場の海洋沿岸域におけ る重金属の挙動と融合型環境影響評価 モデルの構築	1,400
南秀樹	東海大学生物 学部・教授	深海底堆積物中における生物活性微量 金属元素の動態解明	1,300
宗林留 美	静岡大学理学 部地球科学 科・准教授	アスタキサンチンの異性体組成による 海産小型遊泳性エビ類の生理・生態・ 食物網構造の同時評価	1,500
小計			8,400

イ 海外渡航費に関する助成金（2名、合計700千円）

代表者 氏名	代表者所属・ 職名	渡航目的・渡航先	助成金額 (千円)
藤原由 大	京都大学大学 院理学研究 科・修士課程 2年	Goldschmidt 2019での発表、情報収集 のため 発表タイトル：Determination of Stable Isotope Ratio of Tungsten in seawater 渡航先：バルセロナ，スペイン	350
土屋真 緒	京都大学大学 院理学研究 科・修士課程 2年	Goldschmidt 2019での発表及び情報収 集のため 発表タイトル：Improvement of Ni, Cu, Zn Isotopic Analysis in Natural Water Samples and Application to Rainwater, Snow and Rime Samples 渡航先：バルセロナ，スペイン	350
小計			700

### 3 (公2) 学術講演会の事業

海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなしその発展を図るために、その分野における第一人者を招き、京都府内において、広く一般人にも開かれた講演会を開催する事業である。

以下の講演会を実施した。

#### 第38回石橋雅義先生記念講演会

2018年4月28日（土）午後1時～午後5時、京都大学楽友会館にて開催。

講演会に先立って以下の者に、学術賞及び奨励賞を与えた。

- 第33回海洋化学学術賞を東京大学大気海洋研究所客員教授 植松光夫氏に授与
- 第2回海洋化学奨励賞（40歳未満）を韓国国立ソウル大学校海洋研究所研究員 金泰辰氏ならびに弘前大学被ばく医療総合研究所助教 田副博文氏に授与
- 海洋化学奨励賞（30歳未満）を京都大学化学研究所研究員 鄭臨潔氏ならびに日本原子力研究開発機構幌延深地層研究センター研究員 望月陽人氏に授与

続いて、受賞者が講演を行った。演題、講演者は以下のとおり。

- 第2回海洋化学奨励賞受賞記念講演
  - U30 (30歳未満)  
「海水中生物活性微量金属 9 元素の一括定量法の開発と北太平洋への応用」 京都大学化学研究所研究員 鄭臨潔  
「陸水域におけるウランおよびオキシアニオンの地球化学的研究」 日本原子力研究開発機構幌延深地層研究センター研究員 望月陽人
  - U40 (40歳未満)  
「クリーンサンプリング法および高感度分析法を用いた海洋における亜鉛の分布と存在状態に関する研究」 韓国国立ソウル大学校海洋研究所研究員 金泰辰  
「キレート樹脂固相抽出法を用いた海水中の難分析放射性核種ストロンチウム-90 の新規分析法の開発」 弘前大学被ばく医療総合研究所助教 田副博文
- 第33回海洋化学学術賞受賞記念講演  
「海洋表層・大気下層間の物質循環に関する研究」 東京大学大気海洋研究所客員教授 植松光夫
- 出席者 47 名

### 71周年秋季講演会

2018年11月10日(土)午後1時30分～午後4時15分、京都大学楽友会館にて開催。演題、講演者は以下のとおり。

- 「珪藻が変える海洋化学、地球環境」 九州大学理学研究院地球惑星科学部門教授 赤木 右
- 「同位体生理・生態学の動向—自然界の食物連鎖と生体内同位体分布を中心として」 京都大学・総合地球環境学研究所名誉教授 和田英太郎
- 出席者 33 名

### 京都化学者クラブ講演会

楽友会館にて開催。化学という分野に着目した、市民向けの学術講演会。「化学者クラブ」という名称であっても、別に、「化学者クラブ」との団体があるわけではなく、主催団体は、本財団である。

年	月日	題目	講演者	所属
2018	4月7日	マイクロ波化学を楽しみ、本質を理解しよう！—電子レンジdeサイエンス！— & 電気化学から見たマイクロ波化学—	松村竹子	ミネルバライ トラボ取締役
2018	5月12日	毒か？栄養素か？：必須微量元素セレンの生物学	三原久明	立命館大学生 命科学部生物 工学科教授

2018	6月2日	樹木年輪セルロースの酸素同位体比が明らかにした日本史の背後にある気候変動	中塚 武	総合地球環境学研究所教授
2018	7月7日	赤外分光法：40年間での大きな進歩	長谷川 健	京都大学化学研究所教授
2018	8月4日	琵琶湖など閉鎖生水域における難分解性有機物の起源解明ーリアルタイムPCRを用いる藻類の影響評価ー	山田 悦	京都工芸繊維大学名誉教授
2018	9月1日	酸塩基指示薬プロモチモールブルーの色と分子構造	島田 透	弘前大学教育学部講師
2018	10月6日	古代中国（煉丹術）における物質改変の概念	尾関 徹	兵庫教育大学教授
2018	12月1日	シジミ貝雑話	中西正己	京都大学名誉教授
2019	2月2日	生命起源の謎に迫る [GADV]-タンパク質ワールド仮説	池原健二	奈良女子大名誉教授
2019	3月2日	環境水のin vitro Bioassayによる包括的安全性評価	中室克彦	摂南大学名誉教授

#### 4 (公3) 学術情報提供の事業

海洋化学に関する学術情報の流通を促すことで、海洋化学に関する研究、助成及び奨励をなし、その発達を図るべく、学術研究誌出版事業としての「海洋化学研究」の発行、及び、本財団のホームページ運営を行った。

海洋化学研究（第31巻1号）を2018年4月28日に発行。主要な内容は、以下のとおりである。

種類	タイトル	著者
海洋化学奨励賞受賞記念論文	海洋における銅の高精度安定同位体比分析法の開発	高野祥太郎
総合論文	溶存窒素化合物の窒素酸素安定同位体比による窒素循環解析ーN20を中心としてー	木庭啓介
月例卓話326	森里海連環学 -人と自然のつながりの視座-	吉岡崇仁
月例卓話327	水溶液中の固体表面近傍の蛍光X線元素イメージング	辻幸一

学術助成報告	平成29年度伊藤光昌氏記念学術助成研究助成成果報告	南知晴
学術助成報告	平成29年度伊藤光昌氏記念学術助成海外渡航助成成果報告	鄭臨潔
学術助成報告	平成29年度伊藤光昌氏記念学術助成海外渡航助成成果報告	辻阪誠

海洋化学研究 (31 巻 2 号) を 2018 年 11 月 10 日に発行。主要な内容は、以下のとおりである。

海洋化学学術賞 (石橋賞) 受賞記念論文	キレート樹脂固相抽出法を用いた海水中の難分析放射性核種ストロンチウム-90 の新規分析法の開発	田副博文
海洋化学学術賞 (石橋賞) 受賞記念論文	海水中生物活性微量金属9 元素の一括定量法の開発と北太平洋への応用	鄭臨潔
海洋化学学術賞 (石橋賞) 受賞記念論文	陸水域におけるウランおよびオキシアニオンの地球化学的研究	望月陽人
月例卓話328	ビタミンの発見余話—森鷗外：光と影—	左右田健次
月例卓話330	発光細菌の発光分子メカニズム及びストレス応答性バイオセンサーとしての細菌生物発光	柄谷肇
月例卓話332	老化による蛋白質中のD- アミノ酸生成と加齢性疾患	藤井紀子
月例卓話334	マイクロ波化学を楽しみ、本質を理解しよう！—第1章 電気化学から見たマイクロ波化学—	松村竹子
月例卓話335	毒か？栄養素か？ 必須微量元素セレンの生物学	三原久明
月例卓話336	樹木年輪セルロースの酸素同位体比が明らかにした日本史の背後にある気候変動	中塚武

本財団のホームページ運営事業においては、「海洋化学研究」の掲載論文をホームページからも見られるようにし、また、財団からのお知らせ（助成金・講演会・出版等）も掲載した。

URLは、<http://www.oceanchemistry.org/>

以上

**2018年度**  
**事業報告書の附属明細書**  
(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

本年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものではありません。

以上